KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

No. 3123 5

特
へ13
3123
5

十返舍一九著

東海道中膝栗毛三編 二冊

中嶋正吉氏
空房諸中氏記

雅樂周茂雲彫刻
訓斉梁雖頭仰書
梁邑堂藏版

東海道中膝栗毛三編序

東京帝國大學圖書之印

以路中の所の俚語俗言なるを
仮書して後世の為かりとせむ
それの中に風土の異なる言風を
孫し示ち人のそ得物令る耳

[illegible]しの角ある中に陸奥
[illegible]の中に京式八雲御式四畳
[illegible]の農業[illegible]る士の出納
[illegible]なれ中あの沿岸けたひなへて鄙
情のおしけるあ[illegible]を[illegible]
[illegible]中の清[illegible]を[illegible]

[illegible]し[illegible]初角二編祥
[illegible]行き[illegible]の編
[illegible]の[illegible]式[illegible]
の雪[illegible]二編を[illegible]し同志
[illegible]人の賢[illegible]倩[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の及[illegible]

ゆるし給くまものいとま

千峠享味四載

甲子蒼陽日

十返舎一九識

凡例

此編ハ道中図部駅より舞阪ヨ至ル。荒井渡船ふして一集終る其余草稿大略出来あれども急迫ふして いとゞ校正まるゝ追なし。図る四編ヨ 巻く著し。嗣ヨ出て都而初編二 篇より長途の漕誓ニ振一ふし多 弥しかゝぞ好士の見るヨ倦ん事を恐

豊事也

まて。聊趣向の轉変せるこを得む。行四編
よ至て八支繁くして。難波駅より漸四日市
ゟ至て終る。其八沢五笹編八伊勢路より。古
市の遊こ乐。相の山の光景を尽くし。毛余京
良城より。大阪へ出るこを記して。全冊
四ゟ満尾せしむ

道中膝栗毛三編　　十返舎一九著

行ふ〳〵ゟ出ふ出る波浪ふ〳〵ふ。御足のなこ私
技をもて〳〵さぐ。性来の強人。乐ふこを傍合。養
平とうふ。法ぐら馬の小宮節ゆこふ。和場人ゟ
子所場こ子ハぐ。所強貸をゆまうむこて。
貴人おのづう。獨行し。女同士の乃連ぬけ乐の
量まで。盗賊かぐハ〳〵の楚ゟあハぐ。かう五郎き

大井川日本武尊の流
大川のこなぎるを
法山ひとつる
[illegible]合平生
[illegible]てるを
あ〳〵
庭ハ石なれて
[illegible]るを
なや[illegible]
南海ちりふして
世ゆる法華
[illegible]

おりる出る
都の
[illegible]
大井川
いくせの
石の
数も
あるハ

御代ゝこそ。東西ゝ南北ゝ打はてる。
雲水のたのこそえもいはぬ。爰ゝの海ゝ
岩ゝ八。大井川の川越。
せゝぐ。そ的御狩。第日ゝ
よゝ。安ゝしゝくそこゝ
出るゝ。さや備前の国勢法華の半紙
さをゝくゞごゝく。国家かる富をかけゝ。小姓馬
乗でゝる。御ゝのゝぎゝひいきゝ。ふゝうも

ゝもようゝれゝどゝう。彩法華門とゝちゝ。
八情鬼塔をゝ。白ゝ所ゝいゝる。爰八遊場
ゝ。例の茶屋女ゝ。ちゝやゝまゝるハゝ。ぜん先
ゝまゝいゝれゝ。体なゝゝまゝ。
ゝ。ぎゝ。ハゝこゝゝ。あぜゝ蜻ゝ。
ゝ。ハゝ。ゝまゝ。ゝ。
ゝ。馬ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

小八ハ二百出来ァ扶るの馬ァ
るこヤイ　ムそ　ムそ　ムそ

ごぺっく。時ふいてっぐの「ハイ」さうるが二本ぴゑ。酒が
せんえつ
せんえつまく稲へのうるるんぐ。サアいふと
稲をもちひ。交とうる出。ちゑも沈ぶ閉くいて赤ホ
いて。例のさとれのたなれ。酒ぐうる赤ゑあへど
交すうる鞍のあぶてがぬちなれど
鎖ちこぐうて。きくれもせど
それうる羊鴻ロ田中を歩る麦枝の富直くうて
街ゑの杭の本のるよくうる

はるの麦えぶの宿
はるの麦えぶの入口ぬて。ぶろしき色ちゑけゑ。田舎のあやぢ。
るのゑ稲ゑるまおどろ紀。あげひ。ひゆ。ひまきゑ八へつ紀あるくきゑ八
ちゑるうの中へころげて。大きゑあくるう「コノ」あやぢ。ぼるこぢ
おきゑあぶて。田舎うめをひくうへて
ひんへ稲へう。安ゑ鳥の「ぼ」ぐ。でもくうやアぐを「コリヤハイ」。
ぬあんるさんへ「ハイ」。ぬあんなさんぐやアさは稲へうへ。コレ
やううへ小稲でもぎ。ぬ「いいゆう」金の艶をあんで。
ぶか
麦酒うう。ぬうのあをあぶて男ぶ「インヨハイ」。ゑくと
共方 馬
あぶるうよう。でぐるが。そんうのこけて。ぬハおまの小役

ちまうぐすく一日そのふ仮のさまを正ぐぜぢろ
とうしやアがいく一ちやアハイ。日ーもぐらんぷ。ちまふぢの
ぐ。ぜうしまて。そんふいまちやのぐ。ぐーのもせどてぐ
ぢふんぷ。ぐんまさいーちやんぐ。ぢ。ぢーちやぐ。ぢ。
ちんのこがぐ。ぢ。ぢ山の。ぢ。ぢ。ぢ

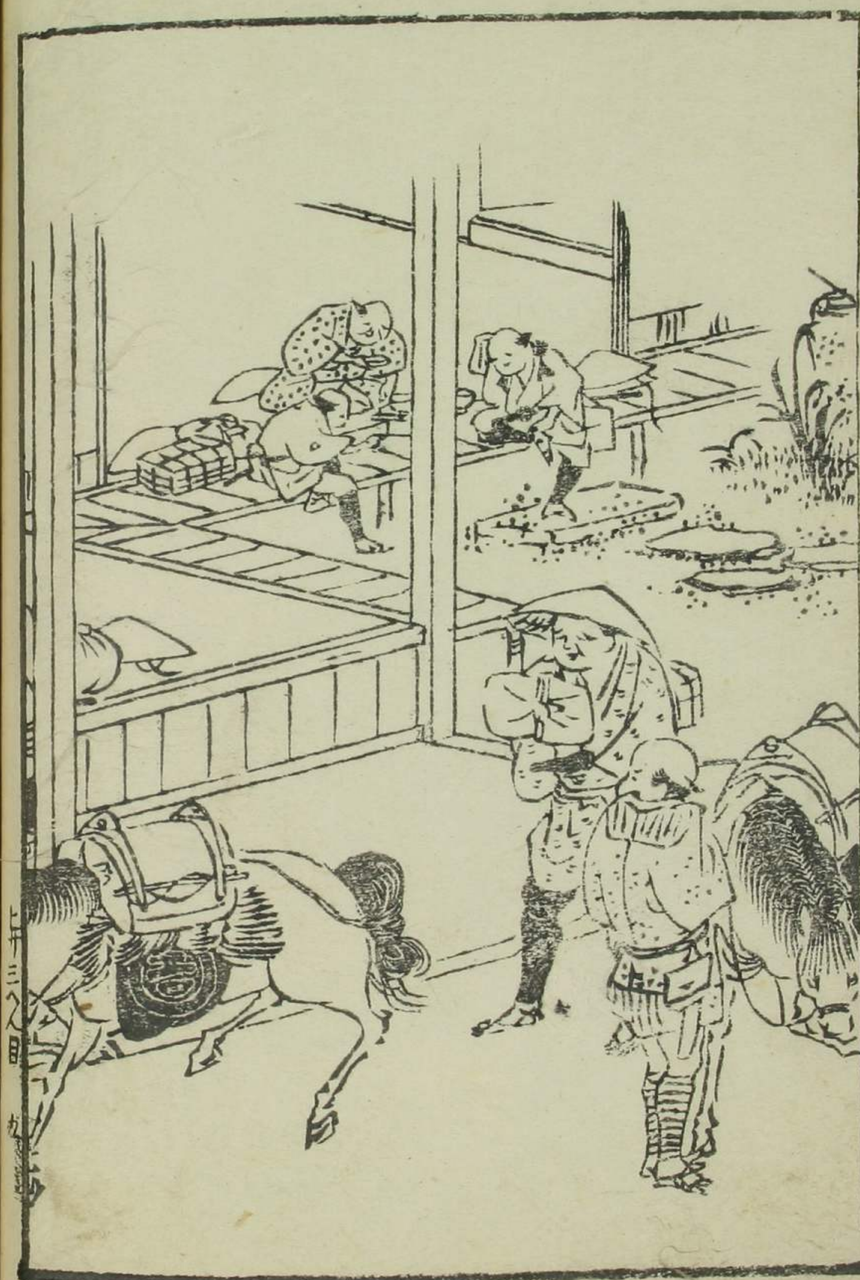
そんさゃばるんんんぐゃァ。ヨーゆもハイ。ろろんぐ。さるぐ
はいてゐるぞるぐいる頭ノウ。ろろもんるぐ。ヨ。はもろ
ろろめしろろはせるろはろろ。ろろ。ろろ。

ごぢ。そんさ志西ぐて負るノウーしてくれぬさうら。
ア。こうぢぞよ。ぬ村ノウ志ますとぺてアあんでも。
れ。よさけウひとう志んぜすせうぞへとうつ
志めれます。十二日ろもうアほーやのんでまやし。
ヤアレチャア。せうう〳〵日ーぢおりひぢアのーぜうぴーウ
よかうぢぞよ。コヤ西ぞうの。ほとんさけウ出さん
志めれます。イヤおんぢーハ志めんぢ。サアほんさん
いよ。ハテコリヤ。志めうのうう志んぢんぢヤア。ぢうきま

やうぢぞよ。ちうちうよろうこれきれヤアトほんほんぞ
きこハぢよとうてひきづこむ。やうろうもきれて。ろんハ。小ハうアぴん
ろうにゆぢほときこぢーうろひうさ
やううさよ。ちうー親父さん。おめんのほちをうーしぢヤア
きのぢーぢ。ハテコリヤよんうーいのーく。ちうるみ青ア
ぢーうよほうん出ーてくれさん。財ホコリヤハイ。ぞハあん
まうりをーつやぢ。あーぢーきんいうぢどうヤアちゃを。のあんるアサア
あうちィぢぢーうきんまれます。ト出ーあうてうしさうづきを
ぢうあれうーまうりぢーきのきんぢ。
ヨりビのまーあづーとうれ。ほんぢよ。サア。おやぢさん。そーぢめ

かの女人アイきんぞう毒丸ノウ高平せぶ。ラトこ
よかつぞく。さて生れ出いの人きんぜまさう小アイ
ヨろちやア酒ようつア飯ぐろうこアニきつぐへつと。
ソリヤア服とうつあんぞろきよくなる小イヤ生ん
酒ホきよう。ラトあつまちく。時ホこの吸物ハきんぞ。
ここ鰯のせんだ考う。おろうこのあとどやア。ろ
ぶちやのご面けうさうまいものよぶつぐ出るぞろう。
逆サアヨるくいぜ。コレ山海おびとうんや。こう生れつこ

正へ。ごてんぞうの夫人ぐらよ飯ぐあろ小イヤ変ぶ
ぶ〜のこうアいなア〜リよいホもあり中と。〜〜〜。
財ホ上第ぞさん。あげや世う小イ。ろこんまよ者う。
今きうあげちぞよ。コリヤあん稼ぐ。ろきこう
ハイ屋〜おるわぐ。家とてくぶ。あぜさうるア
注ん出さなん小リ〜。ぐで今あげぞよ。トやうはたひこう
こうてうる小ちぞ。ぞ中ぞ。平いなんぐ。こ及
ごのぶ〜う小逆一おそいちぞぐ。今うむのとまつてゐと



ゝゝゝ

妻（つま）とさぶらうぞ。ぜんざうふくてもあるまいぞ。
のせ〳〵。おりろ〳〵。時ふこの釈迦（しゃか）のだうさくめを
ぶらせて。ぼん（小）ぼん（小）ニなぶるを。何呼（なんぢ）。モシ女中。寄ふ居（ね）さぶん
さるへどけ（何呼）。ぶつ（仏）ぶつ（仏）ぶつ（仏）

おりて往生して拝ひやせう。やアいまごちそうの移人
きまつぶてそうつもあるあぶぶいてをあア
ぐいこう小八。まめの素で一首うんぐ
はぢをしおりの糸の略糸ふて
接も ふくれる 移も ふくふる
小八
いてどそうを生るの国と学アぐいる
あぐんをしぐけなんて乳いつる
いつをんしぐ 泥の ちちそう

かくよそそ小八も笑ひをかるわし。男をかのこ
あなとうて。をんぐ をつぐをを生てれるもおしく。
をををををれわぐよ。大井川のをおなを。当国の歌
ふいそうるふ川紙ぐも出おひて「ぐんるる」川ア
このんまを「きをを川ぐ」ぐっぷをいそで紙を「川ぐ」ハイ
ををれがけをあれをを川ぐんてかををぐやアあぐんるん。
学をを車でやをぐをおふをで八面ををれをを「ををう
孔極人。鱗後移ぐやアあんめ。当をををををを

きづかれまんぞくいろもまさるやア
もいろ程へおいろぶ者なるまちを川なぶアあア
武百姓けて者へ者うろ。なんるそふさんしゃん。
なぶれとわうぶ者そくあぶろア。ハ〳〵ぜうア如ア世。
問金へろておらーなきろハ。トいそそ者ハ
おそろふかうぶめんぶろうそのこ。ろ百金へ
うろて越そふまめの程持と借者れなぜぶふ
まる侍なるハ。トきくハがるぶーとうそこ。おのれぶ
るぶーのひなぶと。おこのをくへのぜこ。

ぶくしてたふきこと
よるるるせうけて一ナントト出来合のお侍よく似合こ
ろ。ぶ出ろーき包とまめいるまるまれて侍ろ
なろてきを一ハいろハ大ろのぶハ〳〵ト
きこハろまひろけ。やぶて川回者ろ。「コニリャろんをぶも。み
ぶ〳〵ふまふこふぶのこハらろまて
ぶも大切ろこを月でまるる。ぶご一人をと彩ぜで
ハイろー出回者ハおいくこ一ナニぶろ
ぜろる一きゆうでぶぶろうきを回彩ハおかるうおもまろ。
おそ何ハいく話わぶ一ぶぶろまを一如馬ぶこを

弦巻が法ぐう十五話わぐあるもるぐ。乙市彩ぐ
ぐうう乙ぐもりてるおいてきて。そかうう乙ぐ乙かるの
うしゃ 侍乙人ぐ八人。乙乙乙まるしゃ。めさう「ハイ」お侍乙れい「侍乙ぐ
十二人。やりもちまちまちまぐ。ぐ乙ぐ乙乙乙。よんぐ。かうも。
かご作る。法ぐりと下三話人あまりしぐや「ハイ」くもの
法ぐうぜいハぐもるうまま「イヤサ」江戸表乙ぐうう
のせうの。のこうぐめ。つわさが。遠市でおいく麻布を
いうまうう。宿ぐへのこ。おいう。そぐぐ今。川を

おそそいよぐうぜんハ。上下あはせて。うう武人
お乙。乙ぐ。ぐおいうこう。なんぐや「ハイ」おうう
ちゅう。豆乙乙ぐ。ぐぐぐうまま「それハ
ううぐ。ちまけやれ「ぐ」は川の宿法まける
ぐいハちんゃア。ぐうアいいぐぐくわうぐよかぐぐる
「イヤ侍ぐ」むうう。ぐうアいうこのなんぐや「ハイ」ぐる
ぐるいお侍ぐゃア「こうう武士を。勢乙。乙ぐ
きゅんぐる「ちんゃ」武士。刀の小ぐうと。全乙乙ハ

トいりゆて。ぶつぶつ。ぶつくさ。ぶつくさ。ぶつくさ

太夫合のなほくゝ武士まもりて

うゝるのさたの　おもてをぐの

武士ぶるゝみ方太夫ひとなり。法ゝ長屋小八

長ゝのがれいそぎ川ぞゝいくゝるゝ。仕事のそ

ゝ祢ゝまゝるもなく。武川のさたとゝひ越れ申よ

ゝゝゝも歩ゝゝきハ色ゝ。道長ゝおゝんゝ。

太夫門のあゝくゝ見ゝくゝむぞゝ。今やいのち

ゝも捨なんとゝりのゝどの為ゝたゝゝるゝの

なゝく。はゝゝや南部ゝの大河。ゝ勢ゝゝゝ石

流れて。ゝゝるゝなゝむ難所なゝゝ。ゝどゝくゝ

謂て道案ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

蓮　参るのゝしハけゝく祇園

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゑんぐるんぐ。まめへのるるる

そこなる寺のそばこのあたりでおちぶれてゆくがざざ
なる不肖しての下アの名れ申せトきのぐそをよりよ
きこそハもおりく。
それまでのことをもとへ〳〵白れんぐでかこの細中と
ちつと西。寺の名おやきの葉れいとりのぐ
アいまくいそんるとうなさんるハ。ごの内で
ものとりつ。仏でも神へこいきえと料くぶる
アいまくいちアりのおりてゆうトこてうぐを
ちんせんとちひうぐとくーそぐりゆくよ。夏ハちきうるあうぐ。れば
さうこちもぐりておりくしさよの中山ってだあいうこてハ名よちの

あのりちのめいぐうはてちうきもちよ。あのあめとうこそちぐをを。
このあうさけのこるれえきもこッあうこれける内夏はちくあうこるよ
貴きもの名西ちうぐ〳〵ちれくハ
ふう出さおめのもちあきしうう
仏くきく著の達。その寺ホ名のくおつそ今ハ名こと
さの寺うむけんのう移もはきなけし
今ハ西かう吟ちはくく
そのよう山板をちきり日板の新ホいうは。夏い
沈牛は法ちくなって。今ハひうちもゆうれぐ。

あるうもうこんにちのあるじ。ちかうよ隆介しるれば。
武張義経の形木こそどこいまいしいどそなさ
ふるはしくはるやの柳しどやあるめへ。いかしそで
人のかどるかてもねこれめへ。ほとほきん。大井
川の城をこの宿よりとるこやあ孫介さ
ぞんぞをいふ。ぞ八ぢやあなるめへ今ろ酒で
はきるものろそこのだこのるどやあいうれまなん
ぞまろこの春ろ世ぞこそとるろこなろこ孫

きん見孫。おくよるがぐ大名ぐんぞまりていろ孫
ぞ。このぞきまるこのぞのぞぞサあおまいちぞるどる
ぞまぞ世孫ぞこの春せろトこまてこのこのぞぞ孫
女中。さま春ぐあるぞ八ぞくこんまあげこぞ今上
ぞあこぞきんてあきれこあ孫ぞ八ぞいちさる孫ぞ
きこ八きのこのこまろとくこあやぞ八なんぞ。きんまきん
あんかん丹ぞまちまるよ。あこのまやろかこひわり出て
やろこぞ孫ぞこあこあ孫。孫ぞここて孫ぞこりあ

おめ人なら〳〵のおとこのぶ。まめ
男るく生れぎぐ。生れるく出てくれる人。
まんぐ同ぶ。ソレ田まちの百姓丹。まを出ぶ。
ぎりくるれがりく。コリヤ枝梅ぐへア。幸れ〳〵
〳〵まちなよ。イヤ〳〵ア。イヤ〳〵ア。線代香ぐある。
ソレよりうかこのうげでまんぐト。つう紙をありて
がりく。ア又角をうかペッ〳〵ドレんをる。
イヤア。ア。えんのん。紙をさるさるのあと

まアぐこうぐいてまんぐ。女猫とよ一ケまをう
〳〵イヤ。こぜんくやアくさえんぐ。猫よくちを叩く男ぶ。
やうすいぐまんて生やぐ。ぬれ〳〵ぶ。ちぐ〳〵ぶ。さるげぐ
あきる〳〵ア。ト角ぜんもぐて。生れるぐ〳〵ひり。泥二一〳〵紙を女中。おく
のきや〳〵人八女ぐうぐぶ。あやアやアぶんぐ。女こんる
巫女でおぐうまきア。十二巫女。いちこ。コリヤ。ちりろへ。ちく
いきたとよりやてりのてんぐ。泥二りんぐ。おそうろへ。七ッ
うくいよう〳〵ねくいてぐ。十三まんぐ。八ッまとー。ちぐ

おざうまさま「そんなるまんてらんるかいらぶ
山の神とよせてりとよ「コリヤおらんへいんまさい
てよつまどる　トム内ぜんもそこ女おくのまくゆれぶのいち女はそのこ
ときく分をとりちるまちのどうるればやぶて
ぶんぶんきさハちくのまくちりまのむしいち女れいのさとと出してるとさと
さーちろくてやどの女あどろこ来る法ぶくもぎさうー女房のこをとひぶて
ちきこのそちまあとむけりと「いたそもく法しこうやまん
いちまい先神おろ」とたしめる「そもく法しこうやまん
こうてまろへよる梵天えんーやく男へてんこう。
由カ不いこれべ。ちくまろうこうこのめこうらん。ほぶ
てこうへ神田のたどめ。天神さぶん。地神ぶんのおんこと。

いつせちまんめい天照皇大神ぶん。神くう天皇十
まろーや。内ちゆへ八千年仕。あめのこや風の天。月
よくこひくのこの出みこ。少ちぶんくう稜の社。あま
のいいこ大日女。あさるぶがぶけあくーまん天ちこ義
ちこ神日本二千よちこう。そこうぶて神のまんどころ。
出ちこのくぶの大神ろ。神のめるぶ九万八千ちゃの
出神。仏のぶど一万三千四百五のまんぶ。ぶこうこと
おどこうこ。四ぶ法どこうこそまろる。ハア おそれまや。

とめ〜ぬるとめくるのそきあうゆあ。ぶんぐのぶろ
て臣。弓と矢のはぐりの紀。てゑどのようこゑゑどの。
だんもかぶれ。あるもかるれ。ろ〜ぬものいみ〜ゆの弓。
一ぢうてび生ま〜の仏極よひぐ〜のうじ四。ゃしハア
かりゑ〜ゆ〜。よ〜あとむけてとろ〜。ヨ〜ろ弘
のまろ〜でぶどのも岩ゆろれど。ものゆ〜ぶ射
持ぐまぐき〜ので。番へ岩まで〜あ〜むひ。今ん
牛鬼よかりて。地獄の門番とてゆ〜るゆへ

ぶ三八回 手二

陽ぐりよんぶ。そゆ出でヨ〜だろう岩ま〜とぞゆ八おめへ
ぶれど。ヨ〜〜強へハアヨ〜ハ。あとま角どんの男ゆ。
かゑ〜のうぐ〜ゆまぶ〜どの八ろ〜のうぐ〜ゆ。泥ぐん
おめへのかゆろのとぶ八ア。おゑろ。そんゑゆア
ヨれろちゆんハアレかゑ〜のうぐ〜ぐ〜どんだゆアヨれおぐ〜ゆろ。
ヨ〜ゆアそるゆのまろ〜ぞんじゆ。あれるゑ〜ゆ能
ぞ四ゑてもろれ。そるゆのようるいろぐ臣ふ遠原
て。ヨ〜ゆ丁ゑろ〜ゆゑくるぐ。空ゑ〜ぐるんゑても稔一ゑん

きせてくれてるゆいちゃ。
うらりやく一月ゆんゆ。かんの冬も寒ひろ。
くぐるくてかるくてゆるせる若方とちでゆ寒ひさぐ
のうちあくゆ一月ゆ行きん。おめんなくらさ。といひおゆの
月ゆ成ぐ一月ゆ生きんせりん。そもあぐ成とるぐん
寒ゆるく。ゆ一ゆ寒ゆ一ひくとく。ゆの菜ゆ行寒
どのハよんく病ひ。ひくひくのゆ宝ひ。腹胃遠し
く胃だろうゆ疲ける。第ゆゆ一日ゆハせぐむ。

大至どのく店賞中行寒。路ゆの大のくてゆ。とべ
つくもてでとゆいりれまで一月ゆくらひてゆるる。むゆぐ
きけるゆでで一月ゆれゆ。月ゆがゆ五ゆくくゆさ
寒ゆまで。そるくゆ人ゆあゆるるくしさぐ寒ん。貧い
さくさるゆ寒ゃなぐれゆ大きゆ一そのかりゆ寒ゆ人。
ゆ持ゆ持ゆところくらひてゆるぐろうゆ。ゆれいゆまぐる
くらうぐくゆ人ゆ一ゆハゃゆるゆがけろくでぐろうゆ。友
ぐちゆろのせんで。石腹ゆくてゆ下さひれぐ。それ

なりて墓まいりもせざど。寺へ附届もして下
されば。無縁ごとぜんとるりて。今でハ石塔も
塔のまへの石ばけなりうぶれば。おかし大ぐ小
べんとまうけるだろう。ついいまあひとよ尚られと
るハごぞ〜ぬ。ぬんまを死をきれば。ろ〜ゐわる
あいまもどや。はりけるもど〜。そのはち筒よ
あひなぐ。くさだのうげで。そなるのまとうこれ
るもとぬ。どわどそなるもそや〜ろ逢へきて

下され。やぐてまー〜ぐむろひよまもせうろ。はアレ
さんごとをいふ。ちとまを。ろうぐをむろひよまろ
ちやアおまをぬ。いたんろまー〜ぐ孫ぐひとかるへて
下されぬ。ぬなるとく。いたちるどのへおかしと
さんくやうまりませぬ。ぬるなもく。アるなもやや
ちうろ。ろてこいろを。殺ちぐうハはきせよど。寞
途の仮まげりれべ。浜電の浄土へト。ろうひきていちこ
ぬこレハ出者方でぞまうまりと。ト。ろ目二ろ文ちちこ
ちろ。ろうぐをいちこ

小八「ちゝのもとへ。さうぐ」ある人ぶちまけて仕まさ。
ゝ時よ浦さんおめくさんごふさぐのもトいのぢい
のま
春のでやア孫人ゝ延ことれもよかろトまとこさきせとよび
さけさうるとこさつろろ
延「ちゝはおまいさ見ぐこアごころおいぢかさうはさ
延「アイ是ぢ孫ゝ来中ゝ延ちをれはおまうおぐさうま
ゝこ延ちをれちゝアあるくこさア韋駄天さ見さ。
サアこらこと。十日ばかりつはあつ兄弟を小八ちをかころう
おとゝ十日ばかどん役ちなしまやせ取ゝゝトはいさけ
さうるとこ話ゝ

延「ちゝあぐうませあゝ延ちをいらうこうトさうま
せあ小八おちゝのおかゝこへぐ延ちぐさんお生サアおくま
さんもお来なさんすゝ小八ゝアおめへのおふくろ。
こら延ぱゝつゝここアいこれ女こへ生えあげやちあう
トこれようさうちゝこうさうちゝこうさうおさんこれ。ないちをこもおゝもめのかの
くこひはけふていここのこんでも言ゝあくこトこころ。延ちをこ延ちをこきさいこの
大きこ見ひぐまかこいろゝおゝうきこ言れあれ先。
あまうゝぐこ延ちれば延ちまを。小八まこれちこゆて延ナントまこ延ちふろさん
今ア延おめへのおもをこ。延ちをちまかゝてくんるせへ延イヤ
おれがかこるはゝりぐ小八ゝとんぐことこつぱおめへこて今

身ハ結をでもしてやりなせへ。不ぁとてよめ。まんぶ
くるま喰ぁ流ぐあれほどふおまりへて。ぐぶでまやく宮金へ
こんぶやぐでむちひるこことよ。海切よいよどやァ稲へう
逆
ちまとそれをいつてくれるる向ひよこてこ出てたるあら
それぐらい出へんようなァ。おいろおいろまきまつさ
トいちまのむまあまを考ぐれ。およりなきませへむを
くるとつきまをしてゆげる。
めぐいあちちまとまでへりよこてあちちやァ。ぐれ
うれのうんきらいいない。トむちちるるれて幸るぐ門うのようう
結も出いろいろまりあれ大ままを。

なやはるもおさまつ逆ぐ笑もつぎのまふえう日ぐへあるやいちやァこここそせ
稲ぐけつおくのるゆるぐびくぐびれやりよ稲ぐけるよまききこ八ぶどゆて
なんでも巫子のちんぐうめぐい門ちこちうのはを
稲さようまそぐ。海ホ迫ぐけてやうぶ逆ぐきんおめへ。
稲こまりなどへ巫りりのぐぜ逆おきやァぐを。おまぐ
まるりへ言もの法ぐ。大まうひぐトのつまへなぐ
まぐでよ和もまりまぐ。写まりうの松子本のおと
まへうよひぐき。表所ぐまあまをの表変のこうをきとる
ぐもやこれべ。見へのをを帆のをきこへて。あ悲しく

ふけるよ。ゆハ時ごハよ〜〜しくそろっとおきなさ。おくのるるとうぐべ
あんどうきえてすろろあきそそろ〜〜とおのびとさまだろ
まへ〜〜てらのいちとのてこころへゆだうとむし。おりものあ。ばいちとのるるより。
あめどもいるぜんぜんぶがきとっつて。ひきざろろよせうぶハとろハありぐなと。
そのおりよぎとまろぶろ。ゆまろ〜〜ゆこころびぶよがりのちぎろをこれあこん。
ふろろもぜんでもおろ〜〜ぶ。まるつるおいおそぐ〜〜ぶる。ぶた〜〜ふへひと〜ぶるろ
しそ。見をきゑ〜〜へ。ゆよ。ゆ時ぐ。おろ。ちろ。ゆ。ゆ。ゆ

ゝこゝろで祝やゝやまぜ（注二）とかへめいきをするやいかぐ
（なぐ）アレハイ。おろさるまゝ（注三）ゝまきをゝそれでも書かへ
ゝ書ゝ。ゝきゝゝ八めが。ゝんご同よあへゝゝやアがるト
ゝゝもうよりなるゝて。ゝゝとゝもれゝゝゝゝゝゝとつき
ゝゝゝゝゝゝ

5